

原発 ゼロ にむかって

2012年10月31日 No.37

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel : 03-5978-2741 fax : 03-5978-2865 mail : sien@tokyominiren.gr.jp

第2回三多摩ブロック平和ツアー ～福島連帯支援と白河アウシュヴィッツ平和博物館の旅～

少しでも多くの人にこの現状を伝えることが
「今私たちに出来ること」になるのでは・・・

10月12～13日(金・土)に、福島連帯視察を伴う第2回三多摩ブロック平和ツアーが行われました。

私は昨年の震災の2週間後に宮城の坂総合病院に支援で行きましたが、そのときのテレビなどの報道と実際の被災地とのギャップがとても印象に残っており、福島でもきっと報道では見えてこないものがあるのだと思い参加を決意し、これまで知りえない生の声をたくさん聞き、現状を知ることが出来ました。

1日目の南相馬市では、農民連会長の亀田俊英さんに現地の案内をしてもらいながら色々なお話を聞くことが出来ました。特に印象的だったのが「帰りたい。帰りたくない。どうする。」という看板でした。震災直後の原発事故により避難を余儀なくされ、1年7ヶ月たった今でも、当時のままの風景が広がっていました。

亀田さんは「震災後すぐに直せば直ったものを、今となっては直せない」とおっしゃっていました。地震は天災だが原発事故は人災だという悔しい思いが会話の端々に聞いて取れました。1年以上も家から離れて暮らすとそれぞれの思いが変わってきているそうです。『もう住めないと思う人』、『もう一度住みたいと思う人』そういった意見の相違が家族内でもあり離ればなれになってしまう家族も少なくないと言います。「原発さえなければ…」どうしても思いはそこへ行ってしまいます。

2日目には医療生協わたり病院と農民連・産直カフェに行き、わたり病院では、現状の生活と子ども達への影響についてのお話が印象的でした。

生活に欠かせない「食」に関しては、殆どの食品が放射能の検査をしていて、逆に県外などで検査のされていない食品の方が心配というお話や、子ども達

に関しては、放射能に過敏に反応している大人とそうでない大人がいてそれは

各個人に委ねられている。ただそういった影響が子どもたちにもおよび、いまだに外で長い時間遊ぶことができず、その為に体力が低下傾向にあるとのことでした。マスクをしなくてはいけない、雨に濡れると過敏に反応してしまう。など、子どもたちのストレスになり発育の障がいになっている。その中でも正しい知識を身につけ子ども達に出来るだけストレスを与えさせない活動も広がっていると事でした。農民連・産直カフェでは仕入れた食品を独自に検査し、また食品ごとにも検査表を出すなど安心・安全をわかり易くしており、私たちもたくさんの食品を買いました。店長の赤間さんから「生産者も大変な思いでいるが、民医連さんのように福島にお越しただいて福島のもを食べていただけることがなによりだ」と感謝の言葉もいただきました。その後、白河アウシュヴィッツ平和博物館にも立ち寄りしました。

最近では復興予算の使い道についての問題が報道が多くなっており、福島県自体の報道が減ってきていますが、現状を知った私たちが「原発廃止」を訴えるとともに、少しでも多くの人にこの福島の現状を伝えることが「今私たちに出来ること」になるのではないかと考えています。(地域福祉サービス協会/小規模多機能あけぼのさん家 鈴木 暁)



地元の人たちの悲痛な思いを示す看板



持参の測定器では最高の3.0を示した



ふくしま復興共同センターと原発をなくす全国連絡会は、全国紙2紙と福島2紙に意見広告を掲載します。全日本民医連でも賛同の呼びかけを行っています。団体については名称を掲載するため10/31(水)まで。個人申し込みは11/10(水)までに詳細は「ふくしま復興共同センター」のホームページ (<http://fukko.miraisoft.com>) へ。